

連載 私の町はどんな町⑩

— 深谷市 (深谷宿) —

熊谷宿を過ぎた中山道は、国道十七号線に吸収され北西へと進みます。途中の石原というところが、秩父往還の分岐点で秩父巡礼の人達で賑わっていたと思われま

す。中山道が国道と別れて左へ入ったところに「植木の一里塚」があり、今も樹齢三百年以上の樺の大木が往時を偲ばせています。

高崎線籠原駅入口の四辻に『史跡別府氏の墓』の標石があり、北へ入ると別府城跡の東別府神社と城主別府氏一族の墓がある「安楽寺」があります。

別府氏は藤原氏の流れをくむ名門で、一五九〇年に小田原城で当主別府長清が秀吉に滅ぼされるまで、南北朝から戦国時代に亘り四・五百年も抗争の渦の中にあつてこの地を支配し続けていました。

籠原駅入口から三キロ半程

北上すると深谷市国際寺に入ります。道幅は旧街道時代そのままの二間三間と狭く、左側に旧名国際寺村の地名となった禅宗「国際寺」の森が見えてきます。

黒門を過ぎると本堂の裏にこの寺創建の「上杉憲英」の墓があります。憲英は上杉四家の一つ山内上杉家で、国際寺一帯の庁鼻和城主でした。

『深谷上杉氏』は、憲英・憲光・憲信の三氏が庁鼻和城に住み、次の房憲の代に深谷城に移り、氏憲まで五代が深谷城主を務めますが、一五九〇年秀吉の小田原城攻めの時氏憲が小田原城に籠城していた留守の深谷城は前田・浅野の大軍の前に降伏し、深谷上杉氏は滅亡してしまいました。

寺の北側を走る中山道には巨木が連なり『深谷並木』と呼ばれ往時は五百本近くの杉や松が並立していました。

今も深谷宿入口の常夜灯あたりまでその面影を残しています。中でも国道と中山道が交わる処の『見返りの松』は高さ二十米以上の喬松が三・

四百年の樹齢を誇り、枝翼を樹上にのびし、あまりの大きさに参勤交代の側臣が振り返って大幹を仰いだり、又前夜の娼婦の面影をしのび、樹下で宿への別れを惜しんで見上げたと云われていますが、現在は交差点の電線や標識の邪魔になるので、枝は払われ上部は止められて、哀れな瘦身の姿に変貌しているのは誠に残念でした。



見返りの松 (深谷市常盤町)

見返りの松から二百米程先の「東の常夜燈」から「西の常夜燈」まで約一七〇〇米が『深谷宿』で、江戸から一九

里五町(約七十六キロ)で九番目の宿駅です。宿の周辺は桑畑が多く、蚕産が盛んで絹織物が主産業でした。

宿内戸数五二四軒の内、旅籠は八〇軒もあり中山道中一番多く、六軒に一軒が旅籠でそれぞれ二・三人の飯盛女を抱え、人口も男八九五人に對し女一〇三三人と圧倒していました。吉原などからの流れ妓を含め二〇〇人以上が客の袖をひいていたとい

います。隣宿の熊谷宿は脂粉の匂いが禁じられていたため、江戸からの旅人も、二泊目は深谷でと決めていたらしいです。

英泉画の深谷宿には、五人の女が客引きする振舞を中心にした宿の宵風景が色彩鮮やかに描かれています。

宿本陣・飯島十郎兵衛氏の本陣跡地に、子孫が飯島印刷所として現存しています。

モルタル造りの印刷会社の中に本陣当時の床・柱等が残されているとのこと

です。(小島 次郎)

マンション大規模修繕工事なら 専門会社ラクシーにお任せください!

専門会社ならではのノウハウがあります

工事進捗情報サービス

- ホームページで工事の進捗状況を、リアルタイム配信!!
- ★IDとパスワードによる個人情報保護
- ★インターネットのつながる環境であれば全国どこでも24時間確認可能
- ★足場内の施工写真や工程表、お知らせを随時更新

http://www.ruxy.co.jp/

検索サイトで「ラクシー」と検索してください



国土交通大臣許可(特-16)第20636号
本社:千葉県松戸紙敷1009
東京営業所:東京都港区新橋4-25-6鈴山ビル2階
神奈川営業所:神奈川県横浜市西区楠町10-8

0120-552-028